



PRINCESS OF KAYA

卒業制作 ～カストラの秘宝～

》》》 T-CREW



世界の西に、カストラという国があった。

カストラには代々守り続けてきた秘宝があったが砂漠化が進み情勢が悪化しカストラの王アルカヤは秘宝を公開することに決める。ついに明日、秘宝が公開される。しかし、その前夜、王アルカヤが何者かに殺される。秘宝を守るカヤノ姫が歴史に何を刻むのか。カストラの秘宝とカヤノ姫を取り巻く人々をめぐる歴史ファンタジー。



HOLLYWOOD★VOICE

ハリウッド
ヴォイス

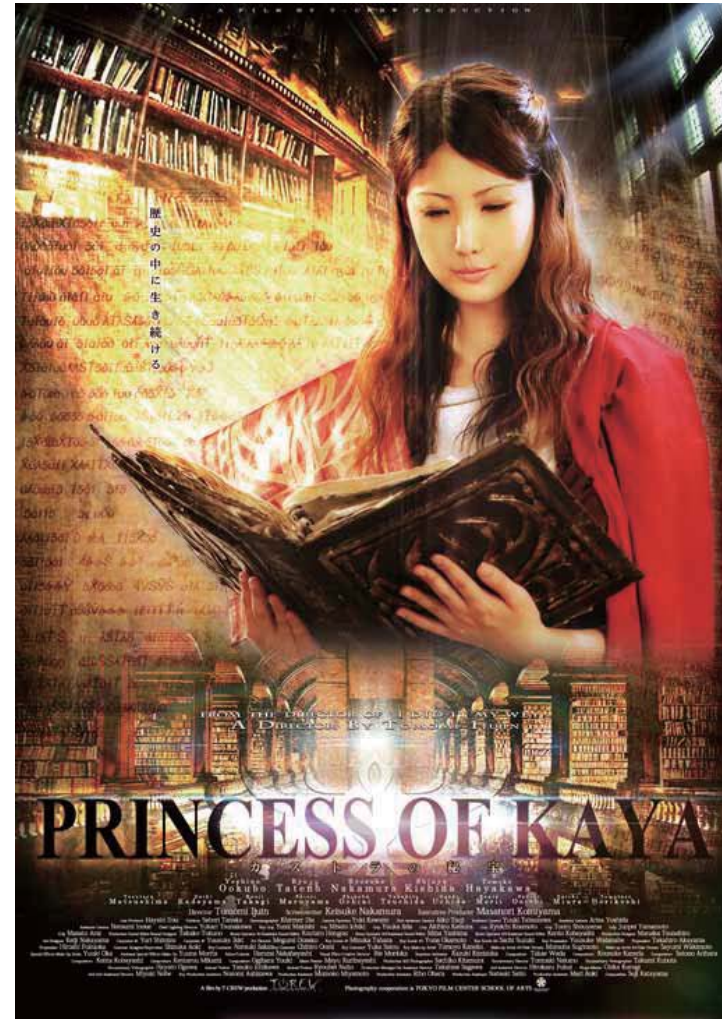
卒業制作作品中、「ストーリー」として成立しているのは本作が初めて。登場人物たちがかけがえないもののために行動しており、葛藤のあるドラマになっている。これは学生作品としてトップレベルの野心作であり、限られた予算でスペクタクル作品を完成させた監督、プロデューサー、キャストやスタッフ全員に喝采を送りたい。映画の魅力ストーリー、スペクタクル、冒険、サスペンスetcが本作には詰まっている。手に汗握るファンタジー歴史ドラマであり、映画づくりの王道で観客を楽しませようとする意気込みが感じられる。小さなセットながらステージングやカメラワークを工夫し、大きな城を表現することに取り組んだ。これだけでも難しいことだ！実写にCG、ボスプロ、カラーコレクションなどで影や質感を与え、魅力的な映像にできたことも素晴らしい。美術、セットと視覚効果は物語を伝える上ではおおむね合格点。演技もよく、カメラワークもよい(これらに完璧というものは存在せず、常にもっと上を目指すことはできる)。改めて、素晴らしい作品を完成させたことに大きな拍手を送りたい。予算を考えれば、私自身ながらして手を出さないであろう規模である。みんなよく乗り切ったと思う。制作期間の長さは予測に難くないし、みんなも覚悟の上で取り組んでくれたはず。おめでとう！

作家・脚本家 **ダグ・キャンベル**



ヒロイズム、愛と自己犠牲、歴史の魅力がスクリーンで表現されています。伊集院監督は美しいセットだけでなく、素晴らしい映像美とサウンドを作品にもたらししました。照明も衣装を効果的に際立たせており、大胆なカメラアングルで独自の視点表現しています。全体のスタイルやファイトシーンの振付も秀逸。焦点がブレない演出、編集も素晴らしいかったです。

ジャーナリスト
ハリウッド外国人映画記者協会会員 **カレン・マーティン**



Staff Introduction

監督/脚本	伊集院友美	4thAD	野澤実由紀	照明応援	庄山徹	背景・小道具	岡本祐奈	編集/カラコレ	中林幸菜	VFX	黒岩理人	作曲/演奏	片山修志
プロデューサー	小宮山慎規	5thAD	芦沢希		山本順平		鈴木紗知	CG・VFX制作進行	森岡厚衣		久保田匠	メイキング	北村幸子
AP	伊藤逸人	撮影	ディア・キルマー		荒井克仁		渡邊裕介	VFX	君塚紀貴		内藤裕太	ムービーメイキング	中野智陽
配宣P	北田百代	撮影助手	川野悠輝		穂苅優人		造形 赤山貴大		在原聖乃		小川隼人		久保田匠
配宣	田中沙穂里		能澤勇紀		徳野強子		福岡寛		和田隆江		山野辺優飛		小川隼人
制作	宮本桃子		辻和子	録音・MA	本郷功太郎	衣装担当	青木静香		金田光祐		山中心平	ポスター	岡優貴
	大原里帆	撮影応援	吉田愛里沙		八嶋未菜	衣裳	酒井菜月		遠藤祐輝		三谷峻吾	アニメイトトレーナー	市川奏子
	宮藤奈月		井上夏美		小林健人		尾身千寛		小林健太		萩原洋樹		内藤良平
	青木麻里	照明	網河由香利	美術総合監督	常廣実央		佐藤祐祐		三上健太郎	CGクリエイター	佐々木恋		
制作応援	宮崎平	照明助手	牧志結美		大道具担当	中山圭司	メイク	金子智世		丸山賢人	コウ ジュン		
原作	中村佳祐		市木美里		大道具	清水祐里		杉本百葉		林辰哉	コリピン		
1stAD	佐川宣央		前田優花		一木勇祐			伊藤宏典		伊藤宏典	リョウ ウェイ		
2ndAD/脚色	福井和宏		桂明宏		背景担当	大迫めぐみ	特殊メイク	岡優貴		中林幸菜	リャン		
3rdAD	黒木千賀	照明応援	河本隆一		背景・小道具	田原瑞佳		森田優奈		小林茜	マッドベイント	金井茉由	



監督
伊集院 友美
Tomomi Ijuin

Mission + Fantasy. PRINCESS OF KAYAはそんな作品です。主人公のカヤノ姫はラストシーンで再出発をします。でもそこまではネガティブなドラマがあります。それでも立ち上がり進む姿に感動してもらいたくてこの脚本を書きました。脚本の原案には私の先祖が生まれた鹿児島県にまつわる姫について調べたことから始まりました。そこに様々な要素が詰まって出来た世界観で美術の常廣さんとクランクインの9ヶ月前に実際に絵にしていって作業がスタートしました。シカ先生と脚本を何度も書き直しましたし、キャストさんとも何度もキャラクターについて話しましたね。プロデューサーの小宮山くんとも良いチームにしたいと何度も話し合いクランクインの直前は全てのスタッフと毎日話し合いを重ねて撮影に臨みました。作品にこだわる為に編集の中林さんを始めボスプロスタッフともクランクアップから9ヶ月後の提出期限まで何度も繰り返し意見交換を重ねてやっと完成したときの達成感は大きなものでした。良い作品を作る以前にスタッフとコミュニケーションをとることの大切さを学び、イメージを形にすることへの努力を経てひとつの作品が出来上がるのだと改めて感じました。多くの人が膨大な時間をかけてくれた事への感謝の気持ちは一言では言い表せないものがあります。この学びを忘れずに今後も「再出発」を描く監督として人を感動させる作品を作り続けたいです。

WORKS

- 2010年
「I did it my way」プロデューサー／監督
- 2011年
「名前をくれた理由」プロデューサー
- 2012年
「PRINCESS OF KAYA」脚本／監督
「江戸川ハートランチ」脚本構成／総合プロデューサー

